

平成29年度

第2回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（1日目）

～本人と家族が地域でよりよく生きていくことができる体制を築くために～

2017年 9月 7日

認知症介護研究・研修東京センター
（進行：研究部長 永田 久美子）



ようこそ！ 全国合同セミナーへ

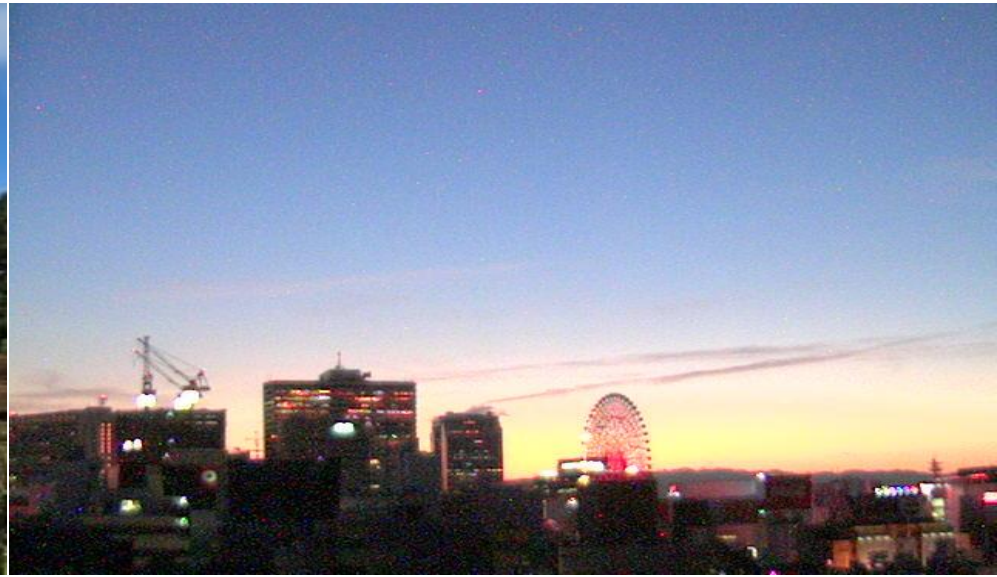


吉祥寺・井之頭公園

認知症になっても

住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができるように。

北海道から沖縄まで、すべての市区町村で。



平成29年度第2回合同セミナー参加者概要

平成29年9月6日時点

区分	参加自治体数	参加人数
都道府県	6	9人
市区町村 (地域包括支援センター、事業者等含む)	108 * 30都道府県から	196人
合計	-	205人

*「参加者一覧(都道府県)」参照

*「1日目グループ一覧」参照

認知症地域支援体制推進 全国合同セミナーの目的

全国の自治体が、新オレンジプランに基づき各自自治体としての認知症施策を円滑に企画・運営し、地域支援体制を着実・持続発展的に築いていくことを促進する。

* 地元で暮らす認知症の人が、初期から最期までよりよく暮らし続けていくために。

合同セミナーで

国施策の
・方向性、
・最新情報
を知る。

全国各地の
取組を参考に
施策担当者・
関係者が、自
分の役割と進
め方方のポイ
ントを確認する

全国の担当者等との
情報・異見交換を通じ
自地域の今後の
あり方や施策・取組の
補強策等を具体的に
検討する

自地域で

* 情報共有
* 対話・討議
方向性確認
具体的な改良
* 効果的取組みの
推進を強化・加速

他の自治体・地域の人とのネットワーキング

めざす姿の実現にむけて、力を結集しよう！

本人：初期から最後まで、意思を尊重されて、地域でよりよく暮らし続ける



地域・生活・支援の現場

市 区 町 村

固有の風土・文化・多様な社会資源を最大限に活かしながら
持続発展的に支援体制を築く

都 道 府 県

各市区町村の施策・取組みを推進・環境整備・バックアップ

国：厚労省、関係者省庁

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)、等

1. 認知症施策の最近の動向について

厚生労働省老健局認知症施策推進室
川島 英紀 室長補佐

2. 今の段階でやるべきこと・できることは何か

～認知症施策の各種事業を着実・持続発展的に
展開するために～

2017年9月



- ・やることが山積み・・・
- ・仕事は、認知症のこと以外にもたくさん！
- ・待ったなしの案件が次々に・・・



やるべきことを押さえてなかった。まずはこれをしっかりと。

同じ事業をするにも、もう少し、工夫できることを発見！

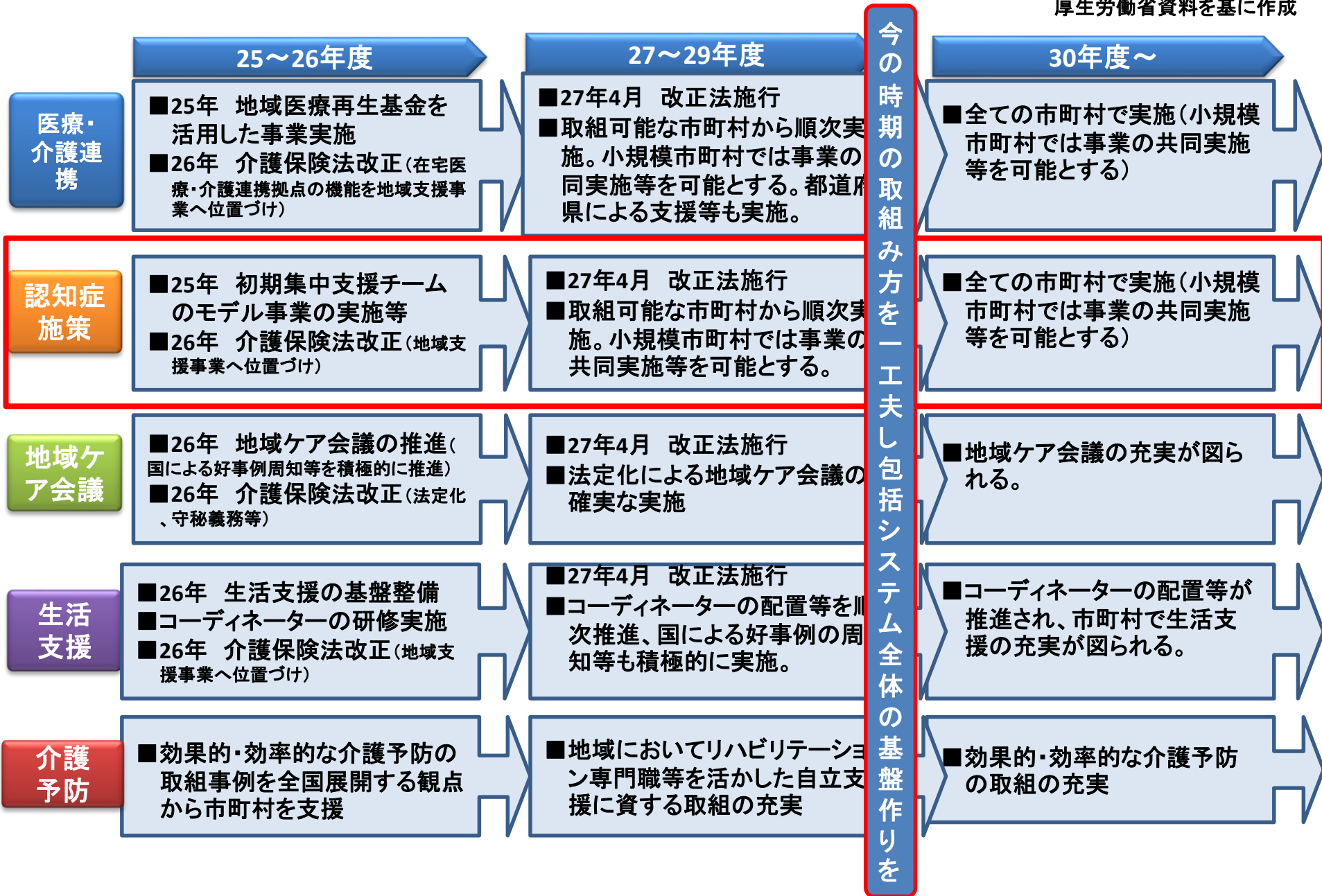
急がば回れ！ 焦らずに

この2日間

- ・少し立ち止まり振り返ってみよう。
- ・視野を広げて、今やるべきこと・できることを見つけよう。

地域での総合的な取組の推進:スケジュール

厚生労働省資料を基に作成



今の時期 ここから3月まで。

*あと6か月間（もある）

⇒各種事業の基盤作りをしっかりと。

⇒30年度以降のジャンプボードを作ろう。

～2000年度

2017年度

4月

9月

3月

2018年度

4月

2025～

各自治体

わが自治体なりの蓄積⇒

◇すでに着手していること

◇これから着手すること

◇平成30年度以降に着手すること

◆平成30年度以降の計画策定

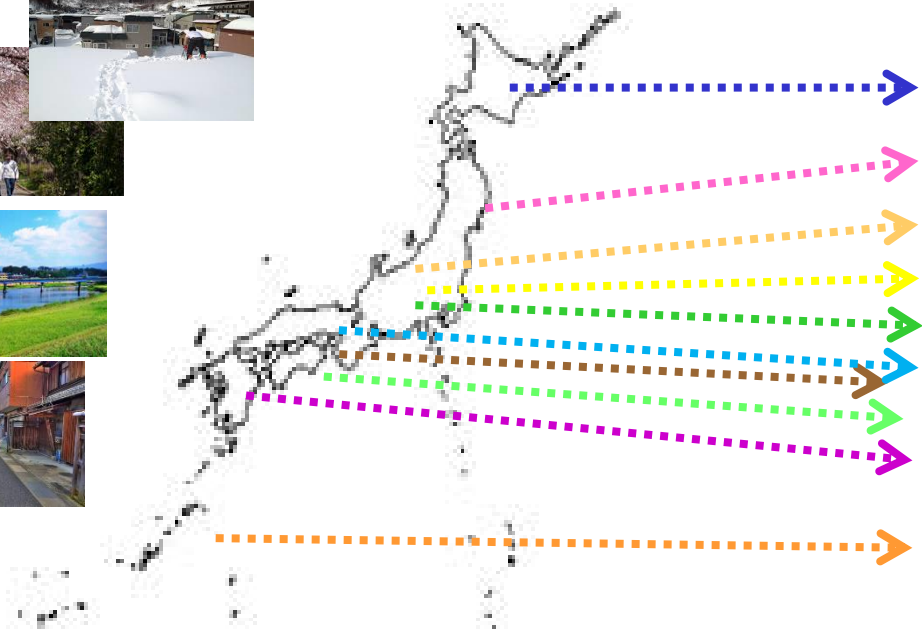
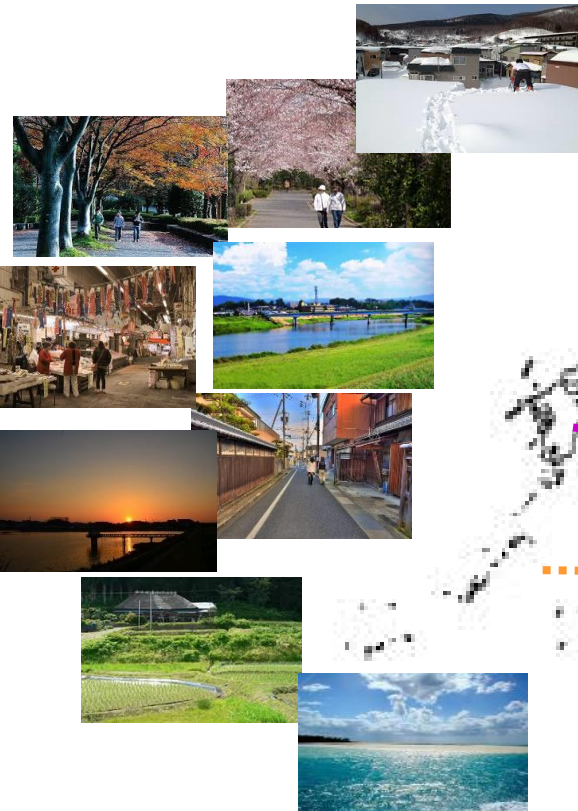
目指す姿（到達点）

*持続発展的に
*目指す方向を見定めて

今、何をやるべきか・・・

手がかりは各地の取組の中に

試行錯誤



今
や
る
べ
き
こ
と

各自治体

わがまち
ならではの
アクションを

やるべきことの
ポイントをおさえると、
みんなが
楽に、楽しくなる
無駄無理がなくなる
成果が生まれる

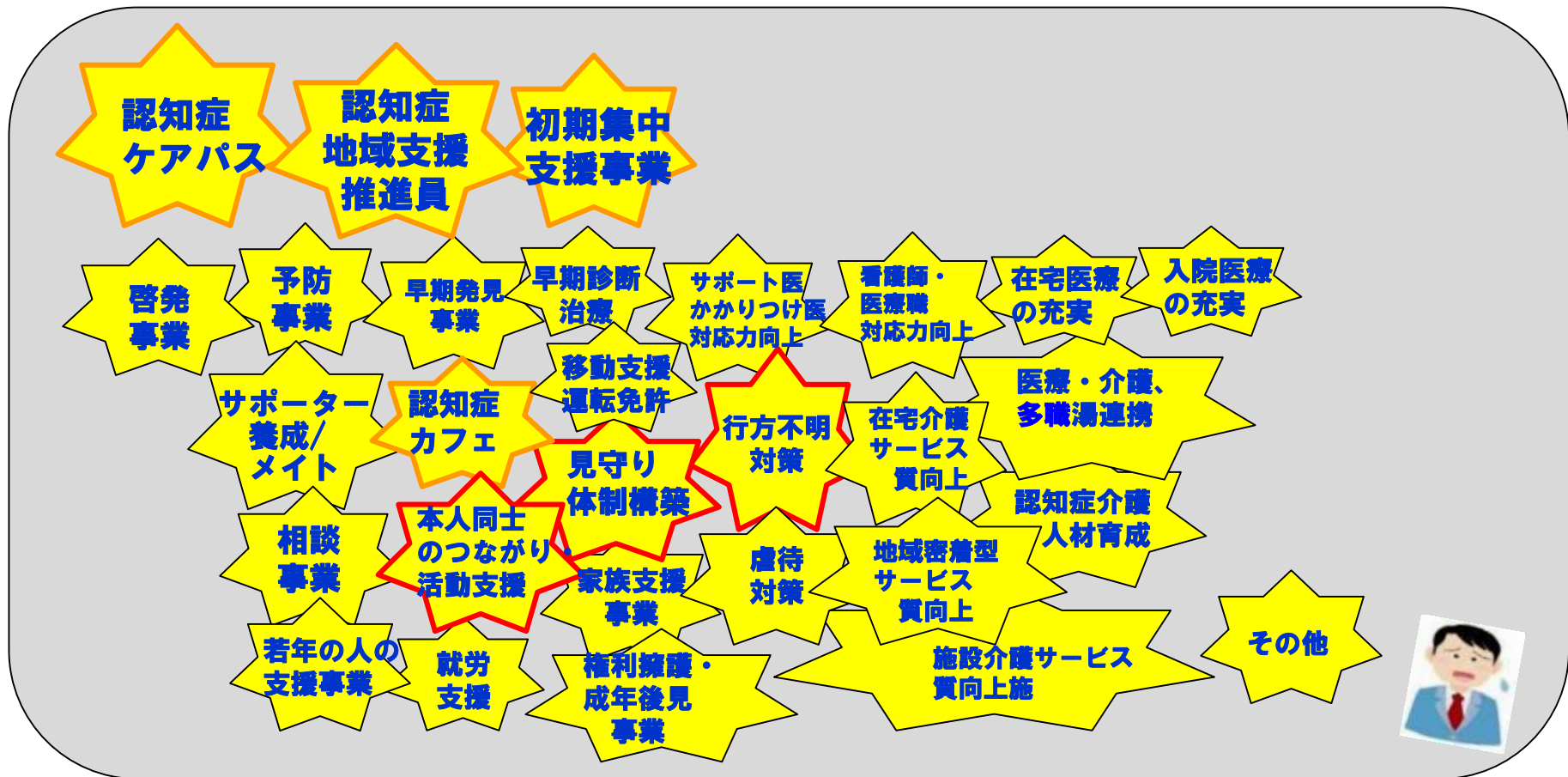
今やるべきことは何か(主な点)

1. 「めざすべき姿(到達点)」を一緒に(再)確認する
⇒バラバラに迷走しないよう、希望の結集軸を作り、弾みをつける
2. 本人・家族の声を聴き、話し合う機会を作る: 中間点検と改善を
⇒本人視点で考え動く人を増やす+年度内・次期計画の拡充
3. 生まれつつある(小さな)成果をキャッチして、フルに活かす
⇒成功体験を共有し、今ある取組みを活性化+新たな呼び水に
4. 外に出て、よく見てよく聴き、脱領域のつながりを増やす
⇒本人・家族の身近な支え手を増やす、幅を広げる
5. 推進役になる人を見つけ、つながり・つなげ、推進チームを育てる
⇒行政や地域包括支援センターが抱え込まず、持続的な推進力を

1. 「めざすべき姿(到達点)」を一緒に(再)確認

⇒バラバラに迷走しないよう、希望の結集軸を作り、弾みをつける

年々、認知症関連の事業やが取組みが増えてきている



関わる人たちが、増えてきているが・・・

また、新しいこと
やらされるの？

あれもこれもで
何やってるのか
わからない・・・

何を目標している
のか見えない。

疲れきってる。
どうせやっても・
.



*** 「何を目標しているのか」を共有しないまま進めても**
やらされ感、批判的
その場しのぎ、長続きせず先細り、
忙しく頑張っているのに、成果があがらない
⇒ 地域みんなが疲弊、先行き不安、あきらめ感

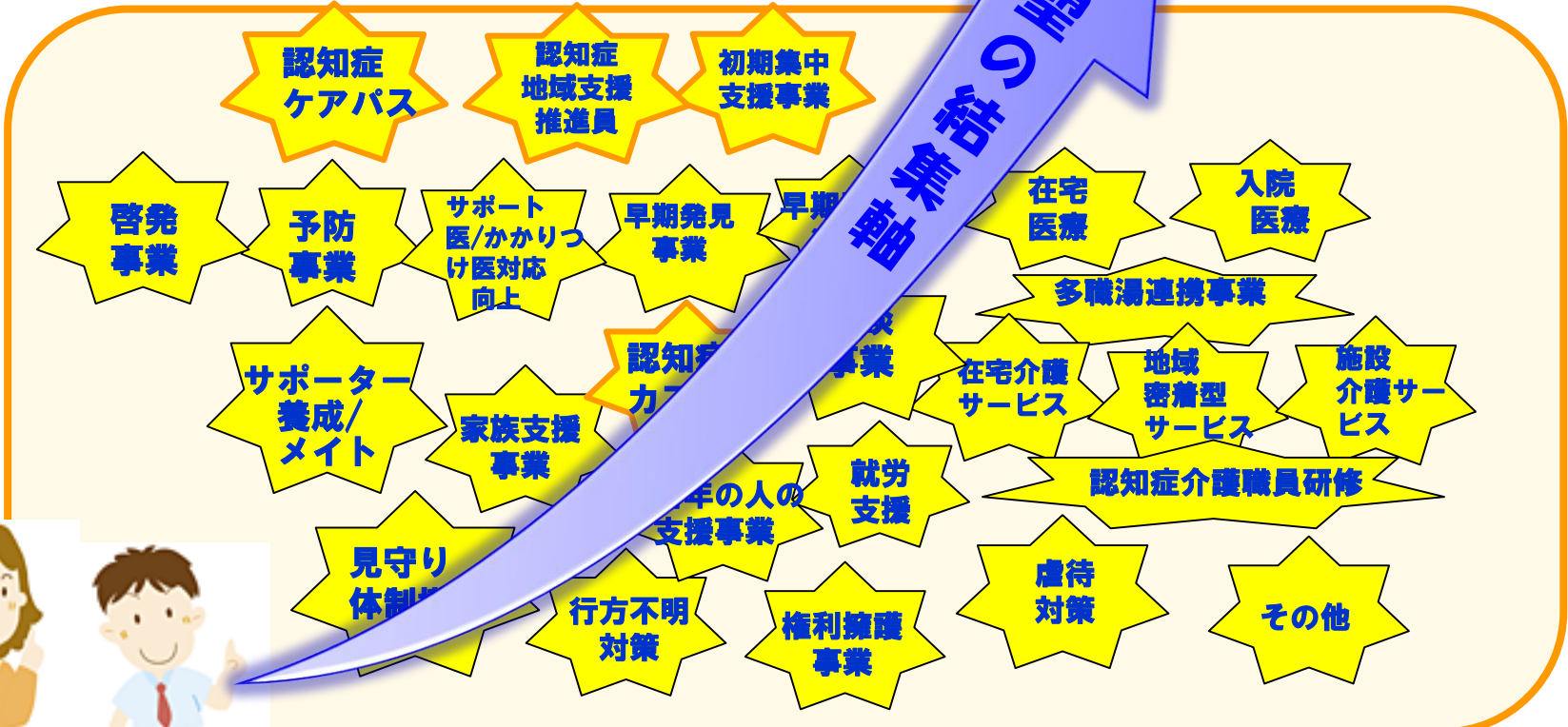
★認知症になっても、こんな姿で暮らしたい！こんなまちにしたい！

- 行政の関係者自身が、認知症への偏見や暗いイメージを払拭。
- いつでも、どこでも自分事として真剣に語る。
- 住民、医療・介護等専門職の「やりたい」思いにスイッチをいれる
- *みんな、何とかしたいと思っている。
- ⇒自発的動き、連携・協働、の鍵

目指す姿

本人
地域

弾みがつく



認知症になっても希望が持てる町を、いっしょにつくろう！

行政の関係者が、

あらゆる機会に、様々な人と「目指す姿」を語っている例



サポーター養成講座で



サロンやカフェで



医療・介護・支援の
関係者に向けて



研修会や報告会で



子どもたちに向けて



企業に向けて



委員会や様々な検討会、議会で



＊地域の多様な人たちのやる気と力が湧き出て、結集軸が生まれる
「目指す姿」を語り合う中で、思いがけない人が動き出す

「認知症ケアパス」を大事に活かそう！ 「目指す姿」を一緒に話し合いながら作成、活用を

参考例

本人・家族・住民・専門職が希望をもって歩む認知症ケアパスを作成 (町田市)



[まちだ・ほほえみ街道] 「まだいける！私の人生」

各地域ごとに、
地域にある資源を洗い出し、
その地域ならではの「認知症ケアパス」
をつくりだす作業に取り組む。

★合言葉

- 認知症になっても
楽しく生活できることを、
ケアパスを通じて、市民や関係者に
伝えていこう。
- 日々使いながら、進化させていこう

<https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/old/shiminnokatae/ninchishojoho/shitte.html>

国施策を地元の取組の方向づけに活かそう:希望を掲げている

国：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～

厚生労働省 平成27年1月

- ・ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。

基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、
できる限り住み慣れた地域のよい環境で
自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

- ・ 厚生労働省が関係府省庁と共同して策定
(内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、
農林水産省、経済産業省、国土交通省)

生活を一丸となって支える時代になった

2. 本人・家族の声を聴き、話し合う機会を作る: 中間点検と改善を ⇒ 本人視点で考え動く人を増やす + 年度内・次期計画の拡充

現状：地元で暮らす本人の声を聴かないまま、
施策・事業や取組みを企画し、動き出してしまいがち。
⇒ 各事業・取組は、目指す姿に向けた
「手段」のはずが、それらをこなすことが
「目的」になってしまい、真の成果につながらない。



まずは、一人からでも、

- 本人・家族の声に耳を澄ます機会をつくる
- 聴いておしまいにならないで、
本人・家族の視点で、関係者が一緒に話し合ってみる

*特に、「本人の声」を大切にする姿勢を行政が示す！

- じっくり聴けていない（身近な人たち、実は専門職も）
⇒そのこと自体が、本人の存在不安を強め悪化の引き金
⇒「声を聴く」地道な積み上げが、
よりよい暮らし、よりよい地域の礎になる

*「一人の声」の中に、地域課題が凝縮されている

- 何が起きていて、何が課題なのか
- 何があったらいいのか、誰がどこで何をできるのか
⇒何からやるべきか、何ができるか、具体的に浮ぼりになる



何から手をつけていいかわからないままとにかくやっていたけど、本人の話しをきいたら、やることに具体的に見えてきた！

一人でも

9月の今こそ、本人・家族の声を聴き、話し合う機会を作ろう
この小さい動きの付加価値は大！

・個別地域支援が
広がる契機になる

この人のために一緒に

一人を中心に
関係者が一緒に
地域で支える
きっかけになる

⇒小さな成功体験が
生まれる

⇒自発的な連携・協働
個別地域支援が
自然と広がる

・今年度の事業の
中間点検になる

本人・家族からみてどうか

・行き届いているか
・わかりやすいか
・利用したい気になるか
・暮らしやすくなるのか
⇒事業の方向性の確認、
内容の見直し、
改善点、補強策の検討

⇒今やると、今年度事業が
パワーアップする。

*事業全体でなくとも、
1事業でも中間点検を
例) 認知症カフェ、
初期種中支援 等

・来年度以降の
計画策定の基礎になる

本当に必要なことを計画

・今年度は取組めないが
来年度以降は進める
⇒今の時期に予算化

・単年度では
十分に進まない
⇒中・長期的に
やれるための計画を

・一部では広がらない
⇒多種多様な領域と
コラボする計画を

⇒今時点の仕込みで
将来が開ける

今ある機会、今後の集まりの場を活かして 当事者の声を聴きながら一緒に話し合う機会を作ろう、呼びかけよう



今困っている一人の
話し合いで



担当者会議で



多職種での事例検討会や
初期集中支援チームの
チーム員会議で



認知症ケアパスや
認知症カフェの
検討会で



定例の集まり、勉強会等で
・民生・児童委員
・介護支援専門員
・介護事業者
・医療関係者 等



地域ケア会議で



多職種の多資源の
研修会 等で



計画策定の会議で

当事者の声が起点になって
「本人視点での地域で支え合い」の連鎖が生まれる

本人のことばより

- わたしのほうをみて。私自身をみて。
- 認知症って、ひとくりにしないで。わたしは、わたし。
- わかりやすい資料や説明文書がない……。
今あるのを読むと落ち込む。
- だめ、しないでいい、あぶない……。
そればかりいわれる。
情けない。いやんなる。 少しでもいい、自由にさせて。
- 世話になる一方は、つらい……。
おとうちゃん(夫)やこどもたちのためになりたい。
- 外にでたい！ 気晴らししたい！ 働きたい！

地元の本人の声に耳を澄まそう

⇒やるべきこと、できることが具体的にみつける。

重要

ふだんから、地元で

本人同士が集まり、本音で語り合える機会をつくろう

＊本人ミーティング

★家族や支援者には、語れない思いやニーズがある。

⇒施策や事業、医療・介護、地域の支援の具体策が豊富にみつける。

★認知症の体験をしている仲間に出会えると・・・

・本音で語れる。

⇒重荷を(少し)おろせる。解放される。

・想像以上に、語れる。思っていることを伝えられる。

⇒真のニーズがみえてくる。

・本人同士で、励まし合い、支え合い、

落ち込みから脱出して、前向きになっていく。

★各地で、医療・介護関係者、行政と一緒に開催する本人ミーティングが広がっています。

認知症の本人が集う取組みの普及【新規】

参考：本人ミーティング

【本人ミーティングとは】

- ◆ 認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのよりよい暮らし、よりよい地域のあり方を一緒に話し合っていく場です。
- ◆ 『集まって楽しい！』に加えて、本人だからこそその気づきや意見を本人同士で語り合い、それらを地域に伝えていきます。
- ◆ 行政や関係者が同席し、本人たちの生の声から、本人への理解を深め、地域の実情やニーズをとらえながら、やさしい地域づくりを具体的に進めていきます。

【本人ミーティングの開催について】

- 地域の関係者が必要性とねらいを共有しながら、地域の特性に応じて企画し、自由に開催できます。まずは少人数から、今ある場や機会を活かして開催します。
- 各地で、多様な職種の人たちや認知症地域支援推進員が取り組み始めています。
- 企画段階から本人が加わると、本人が集まりやすく、語りやすい本人ミーティングになります。

★本人ミーティングのねらい

○ 本人ミーティングは、認知症の人の視点を重視したやさしい地域づくりを具体的に進めていくための方法です。



*** 本人ミーティングが、これからの認知症施策、地域づくりの出発点。**

詳細は、「本人ミーティング開催ガイドブック」

<http://www.ilcjapan.org/study/>

本人ミーティングの様々な取組例

多様な場を活かして、多様な人たちが開催しています。



地域食堂で(北見市)
主催:介護・医療の地域ネットワーク



駅近の交流スペースで(仙台市)
主催:、地域の多職種の自主組織



小規模多機能事業所で(上田市)
主催:介護事業所

本人ミーティングでの本人の声

- 同じような体験をしている人と話せてうれしかった。自分もいろいろ言えて、元気が出た。
- 自分たちが言わないと、わかってもらえない。自分たちが話すことが、まちをよくすることに役立つんだと聞いて、胸がすく思いがした。
- 仲間が欲しい。認知症の人同士で話し合える場所がもっと近くにほしい。
- 診断後すぐ、先生(医師)がこういう場につないでほしい。
- 家族がいろいろしてくれるのはありがたいが、心配しすぎ。
- できることを奪わないでほしい。失敗しても怒らないで。
- (医療や介護の人は)家族と話している。自分に話してほしい。
- 家族に頼らないで誰かがいてくれて、出かけられるように。
- 自分が自分でいられる場がほしい。
- 自分のやりたいことがいろいろある。今のデイサービスでなく、もっと自由な場があるといい。
- 自宅で暮らせなくなった時)家のように自由に暮らせて、やさしく助けてくれる人いる場所を。
- 認知症施策を作る時に、自分たちをいれたら変わるのではないかな。本人の声を行政に。
- 「私、認知症です」と言える社会に。

同席・同行した人の声

- 話せるか心配だったが、自分から話していた。驚いた。(家族)
- 帰り道の(本人の)足取りが軽く、とても嬉しそうで、私も嬉しくなった。(家族)
- 知らないことを楽しそうに話しておられた。もっと新鮮にきかなければ。(介護職)
- 普段と生き活き差が全然違った。他の職員にも参加してもらい一緒に変えていきたい(病棟看護師)。
- こうした場があれば、大事なこと、やるべきことが具体的にわかる!(地域包括支援センター)
- やってみたらうちの地域でもできた。自分の方が元気と勇気もらった。続けていきたい。(行政事務職)



認知症カフェで(国立市)
主催:地域の医療機関/
在宅療養相談室



町役場で(綾川町)
主催:地域包括支援センター



介護施設交流スペース(大牟田市)
主催:多職種ネット

地域ですすでにある場や機会を活かして、小さくスタートしてみよう!

3. 生まれつつある(小さな)成果をキャッチして、フルに活かす ⇒成功体験を共有し、今ある取組みを活性化+新たな呼び水に

先を急ぎ、次々何かしようとするまえに・・・

まずは、これまでやってきた取組み(多くの人が地域で撒いてきた種)の関係者の話を聞いたり、すでにある報告・資料等を見直してみる。

* (小さな) 成果が、地域でたくさん生まれ始めている

* 課題、改善に向けた気づき、アイデアが生まれている

成功体験の共有

・こんな風に行うことができる!
⇒関係者の刺激になる
⇒スキルアップに

成功体験の発進

・うちのまちでもこんな動きがある
⇒自分もやってみたい、という新たな人たちの呼び水に

縁の下の力もちの発見

・知っていなかっただけですでに動いている人たちがいる
住民、多様な職域
医療・介護、専門職
他部署の行政職
⇒今後の大事なパートナー



**本人も一緒の茶飲み場
をつくっている人たち**



**わがまちの見守りは
ここで暮らしている
自分たちで**



**介護の事業所として
地域のとまり木に**



**子どもたちなりの
登下校中やふだんの
中で小さなアクションを
している**

4. 外に出て、よく見てよく聴き、脱領域のつながりを増やす ⇒本人・家族の身近な支え手を増やす、幅を広げる

- ・ 町には、きっかけを待っているが、たくさんいる。
- ・ いつものメンバーで固まらずに、新鮮な出会いとつながりを



わが町の場、自然、季節、文化、産業等

★領域を越えたつながりが、新たな解決力を生む
現場に出向き、ひやすらつながる、つなげる

町にあるものを活かし、小さく始めて、身近なものに

・参考：矢巾わんわんパトロール隊

2013年4月結成

隊員40名 わん隊員44匹



- ・日々、町を歩いている人たち
⇒無理なく、日々の中での活動へ
- ・顔なじみの高齢者がいる
⇒気軽な話し相手に
⇒気がかりなこと、早めの小さな相談
- ➔ 地域包括支援センターへつないでもらう
- ・SOS時にふだんの底力を発揮
★実際に、迷っていた人を救出！
- ★個別のケアプランに、
ワンワンパトロールを盛り込む。
⇒担当者会議にもでてもらう。
普段からの見守り強化、在宅生活継続へ

参考 農業関係者といっしょに総活躍のまちづくり

認知症の人が市の産業振興に貢献

★総活躍に一人

(和歌山県 御坊市)



町 みんなが愛着をもっているものを入力に



ていねいに刈り取り



介護施設で袋づめ作業をいっしょに
楽しみながら、思いをこめて。

○スターチスが特産品

花言葉:

「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」

⇒★町の特産品を

認知症支援、地域支援のシンボル
合言葉にしよう!

→ JAとの協働(地場産業との連携)



スターチスグッズが
大好評



さまざまな人に
大切なことを
バトンタッチ!

分野を超えたつながりを通じ
夢のある企画とアクションが
次々生まれています。

参考 まちの書店や図書館とともに



認知症本人のブックフェアを開催

「認知症当事者の語り ～ありのままの声で～」

ジュンク堂 池袋本店 6階

期間:2017 年9月1日～30日

- * 本人の著書を集めてのフェア
- * これからの生き方・支え合い方をより多くのまちの人に知ってもらう
- * 本人が勇気と希望をもてるように
- * 書店員さんたちが、すばらしい!
- * 全国各地でもブックフェアの動き

図書館「認知症の人にやさしい小さな本棚」



「認知症とよりよく生きる」コーナー設置

- * 地域包括支援センターや関連情報を図書館で初めて知る人も多い。

川崎市がホームページで紹介

<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000078742.html>

5. 推進役になる人を見つけ、つながり・つなげ、推進チームを育てる ⇒行政や地域包括支援センターが抱え込まず、持続的な推進力を

* 地元のことや地元のつながりをよく知り、
わがまちのことを真剣に考えながら、
自ら動いている人/動いていきそうな人と
出会おう(地域の人、専門職)。

⇒どのまちにも、必ずいる！

* よく話しあい、関係をそだていこう(つきあう)。

* それらの人たちがつながりながら
「一緒に取組んでいく仲間(チーム)」となって機会を。

例:集まり、活動の機会、意見を行政に伝える機会 など

* こうしたチームを育てることが、行政ならではの大事な役割。

⇒結果として、内実を伴った連携・地域支援体制づくりが持続的に発展する。

★行政、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員の重要なパートナー



わがまちをよくしたい！
行政の呼びかけで
医師や多様な医療職、
介護職等がチームを結成

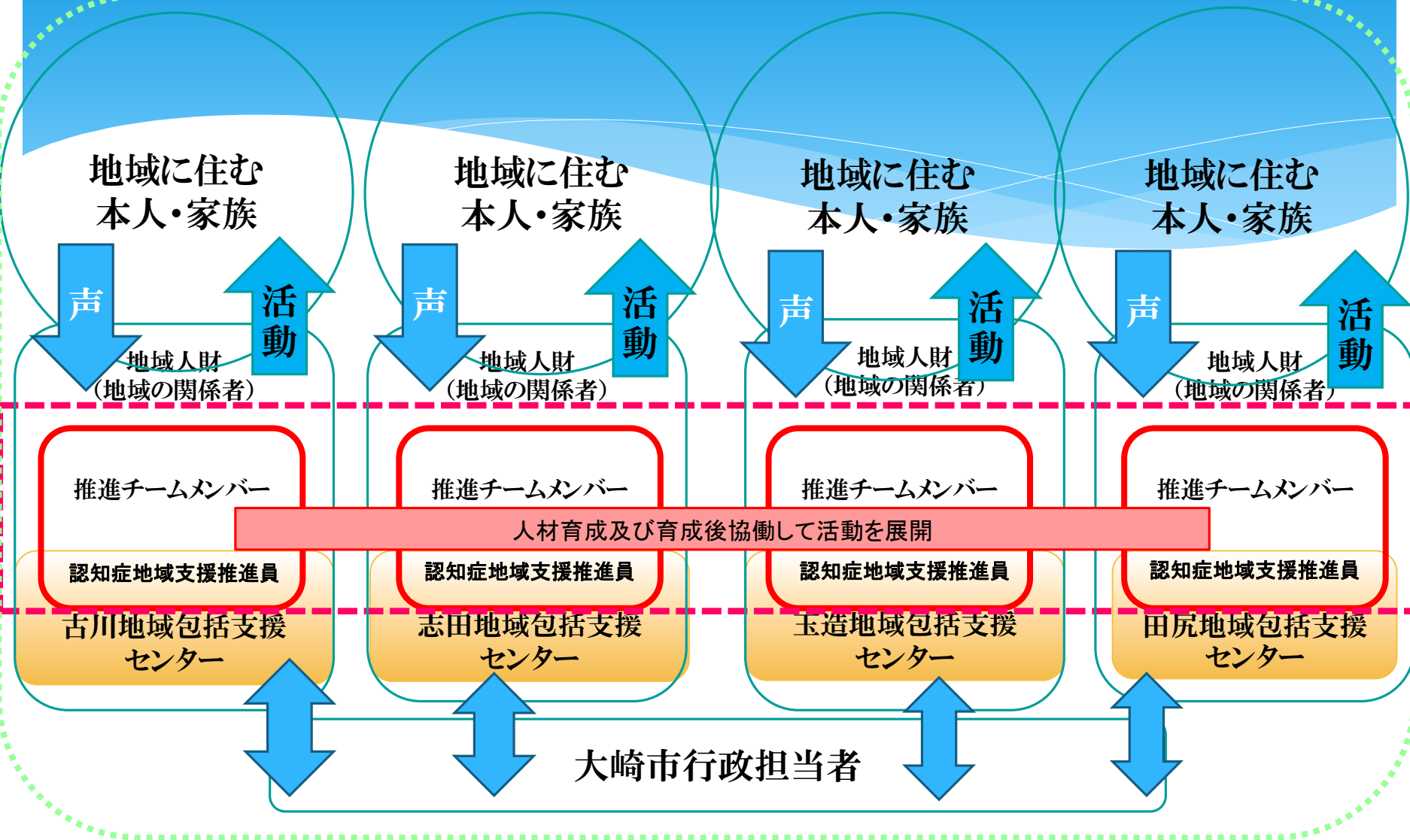


リーダー役を手上げ方式で
行政が毎年募って、
一緒に学び合い、話し合い
小地域ごとの推進活動を。
* 住民と専門職の合同チーム

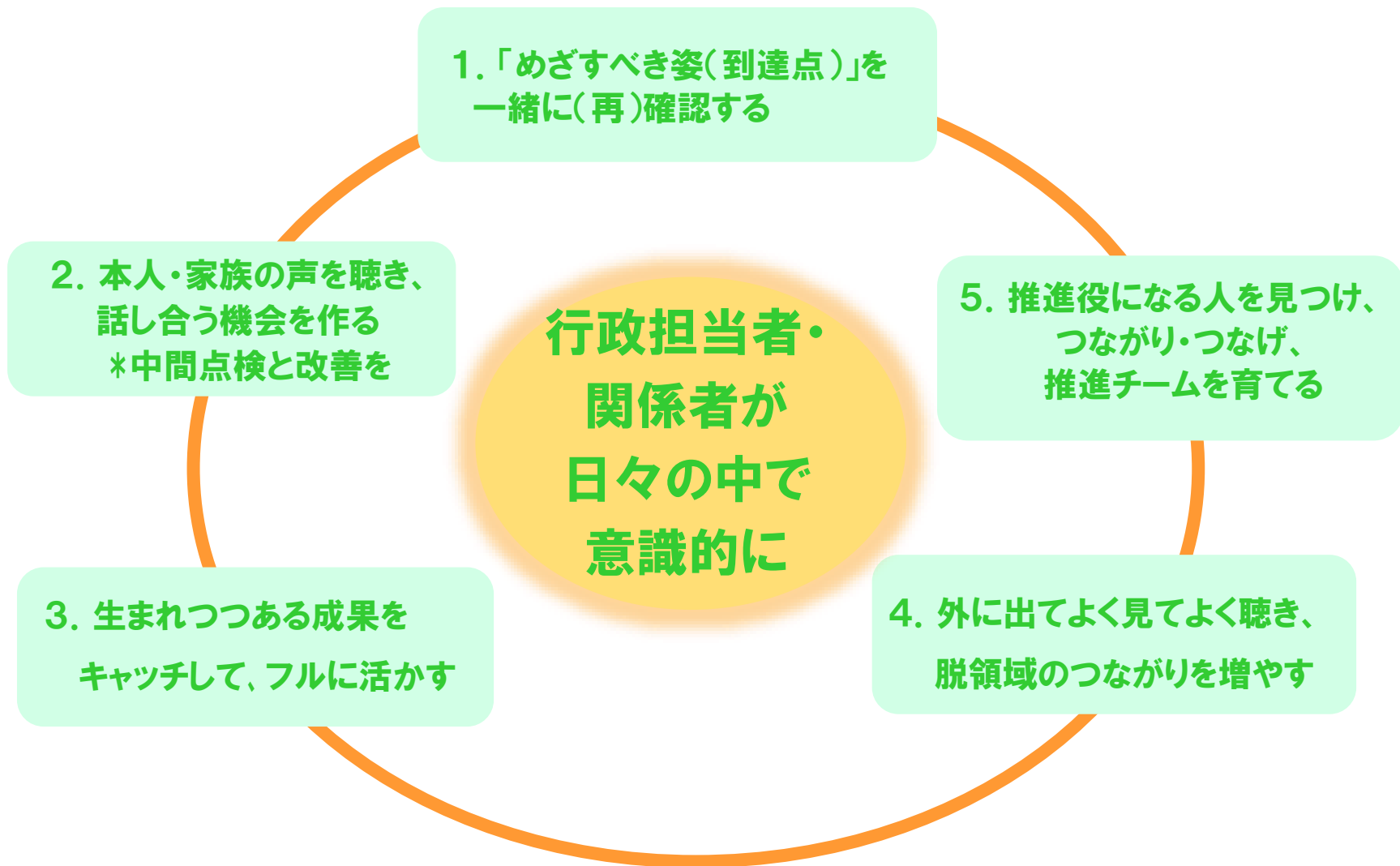
推進役として伸びていく貴重な人材が町の中にいる！
行政からの声かけ、きっかけ・出番を待っている。

参考:市として事業計画を作り、毎年継続的に人材・チームを育成⇒エリア単位で活躍

人材・チーム育成のイメージ図



※1クール2年とし、継続して育成(クール終了後も継続しメンバーとして活動可能)⇒地域ごとにとともに活動する仲間が増えていく



*29年度下半期をよりよいものに
*30年度以降の基盤をつくろう

3. 他の自治体の取組からヒントを得よう: その1

【報告1】大阪府泉南市

認知症でもだいじょうぶな町づくり
住民と多職種～人與人「地域をつなぐ」～取組み

大阪府泉南市健康福祉部長寿社会推進課 奥野 豊司さん
山中 理恵さん

【報告2】 鹿児島県大島郡大和村

認知症を自分事として考え動く人材とつながりを大切に
～住民力を活かして認知症施策を草の根で一体的に展開～

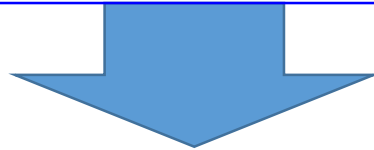
鹿児島県大島郡大和村保健福祉課 早川理恵さん

○情報に振り回されないで・・・

* 特に、ここに注目！

支援体制を一步一步築いていくために、

- ・自治体として一貫して大切にしていること：
「目指す姿」や「基本方針」は何か。
- ・様々な事業の中でも、どの事業に注力することで
体制づくり全体が効果的に進展しているのか。



①参考にした点・気づきは・・・

②自地域の取組みにどう活かせるか

4. わが地域の取組みの今とこれから

～報告を活かして自地域の取組みを考える～

1) 個人ワーク

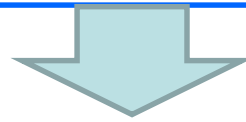
ワークシートで情報や気づきを整理してみよう

まず、各自が考えてみよう *シートの一歩左「個人ワーク」欄に

①参考になったこと・気づきは・・・

・泉南市の報告に関して

・大和村の報告に関して



②自地域の取組みにどう活かせるか

2) 他地域の参加者と話し合おう：グループワーク

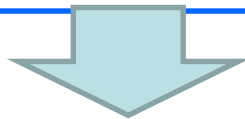
ワークシート:縦欄の2～6列目に、グループの各メンバーの情報やアイデア等をメモしよう。

* まずは、簡単に自己紹介

地域、所属、お名前、「わがまち自慢」を一言！

* 各グループで進行役を決めて話し合いを進めて下さい。

③ (各自が)現在の取組みの紹介と
個人ワークで考えたことを伝え合おう



④自分の立場を活かして、やってみたいこと

◆自由にアイデアを出し合おう！

◆地元に戻ってから進む手がかりを具体的につかもう

地元を持ち帰れるように、メモしっかり残そう

グループで話し足りなかったことがきつとあると思います。

- 紹介したい取組み、工夫、手ごたえ
- もっと知りたいこと、得たい情報



ワークシート（1日目）の裏面に
どうぞ、ご自由に、お書きください。
* 箇条書きで

- ◆ 皆さんの声を、明日のセミナーに反映させていただきます。
- ◆ ワークシートは回収させていただきます。
⇒ 各グループでまとめて、机の上に置いておいて下さい。
* ワークシートは、明日の朝、返却いたします。

お疲れさまでした！

- ◆明日は、別のグループ編成になります。
* 地域が同じ/近い人同士
- ◆今日、出会い、話し合えたグループの人との
つながりをどうか大切に。
* 名刺交換、メールアドレスの交換等を
- ◆地元から持参された資料で、他の地域の人に
紹介していいものがあれば、スタッフに
どうぞお渡し下さい。

～ 情 報 交 換 会 ～

○報告地域の関係者と直接会って、話しあおう！

- ・ 具体的なことを質問しよう。
- ・ 自地域に役立てたい内容・資料等の詳しい説明をきこう。
- ・ 担当者同士ならではの、悩み、アイデアを話しあおう。

○参加者同士、話しあおう。つながろう！

- ・ 今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・ お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・ 今後もやりとりできるために
名刺交換、資料等の交換を

☆顔をあわせた今日だからこそこのやりとりを！

平成29年度
第2回 認知症地域支援体制推進
全国合同セミナー（2日目）

～本人と家族が地域でよりよく生きていくことができる体制を築くために～

2017年 9月 8日
認知症介護研究・研修東京センター
（進行：研究部長 永田久美子）



ようこそ！合同セミナー2日目へ。

昨日の体験は、いかがだったでしょうか？

～本日の進め方～

今日は、同じ地域/比較的近い地域の人たちと一緒に、

話しあい⇒地域の取組報告を聴く

⇒サプライズトーク(本人)を聴く

⇒話しあい⇒自地域の方針・取組の補強策の具体化

情報を「重荷」にしないで

「こんなことが、できるんだ・・・！」

「(まねて)やってみたい」

地元に戻って、お互いが、楽に楽しくなる種探しを。

⇒ワークシートを活かそう！

大事な点を、シートに残して持ち帰ろう！



のびのびと

5. 1日目の情報や知見をもちより、話し合おう ～他地域情報を最大限活かしかあおう～

グループワーク

*昨日の他地域情報をもとに、視野とアイデアを広げよう

○まずは自己紹介
地域、所属、立場等

1)昨日の情報共有
他地域の取組みの中で
自地域に活かしたい点
*アイデアや工夫は

討 議

2)注力すべき点の確認

- ①自地域の課題は・・・
先を焦らずに
何が課題なのか、
この機会に掘り下げよう
- ②自地域で今の時期、
注力すべき点は何か
そのためにできることは

⇒グループの仲間を大事に。
立場や職種を超えて
一人ひとりのアイデアや気づきをよく聞こう。

6. 他の自治体の取組からヒントを得よう ～その2～

報告3:群馬県高崎市

認知症の人を地域で見守り支える仕組み作り
～オレンジサポーターによる見守り活動～

群馬県高崎市福祉部長寿社会課地域包括支援担当

田中 亜紀 さん

7. サプライズ・トーク

わたしからのメッセージ

中田 哲行さん(本人の会:立ち上げ準備中)

8. 今、やるべきこと、できることはこれだ！ アイデアを出し合おう

～わが自治体/地域の課題をクリアしていくために～

1)個人ワーク

午前中の情報をもとに考えてみよう

- 高崎市の報告を聞いて
- サプライズトークを聴いて

***今日の気づきやアイデアを、新鮮にメモしておこう**

2) グループワーク

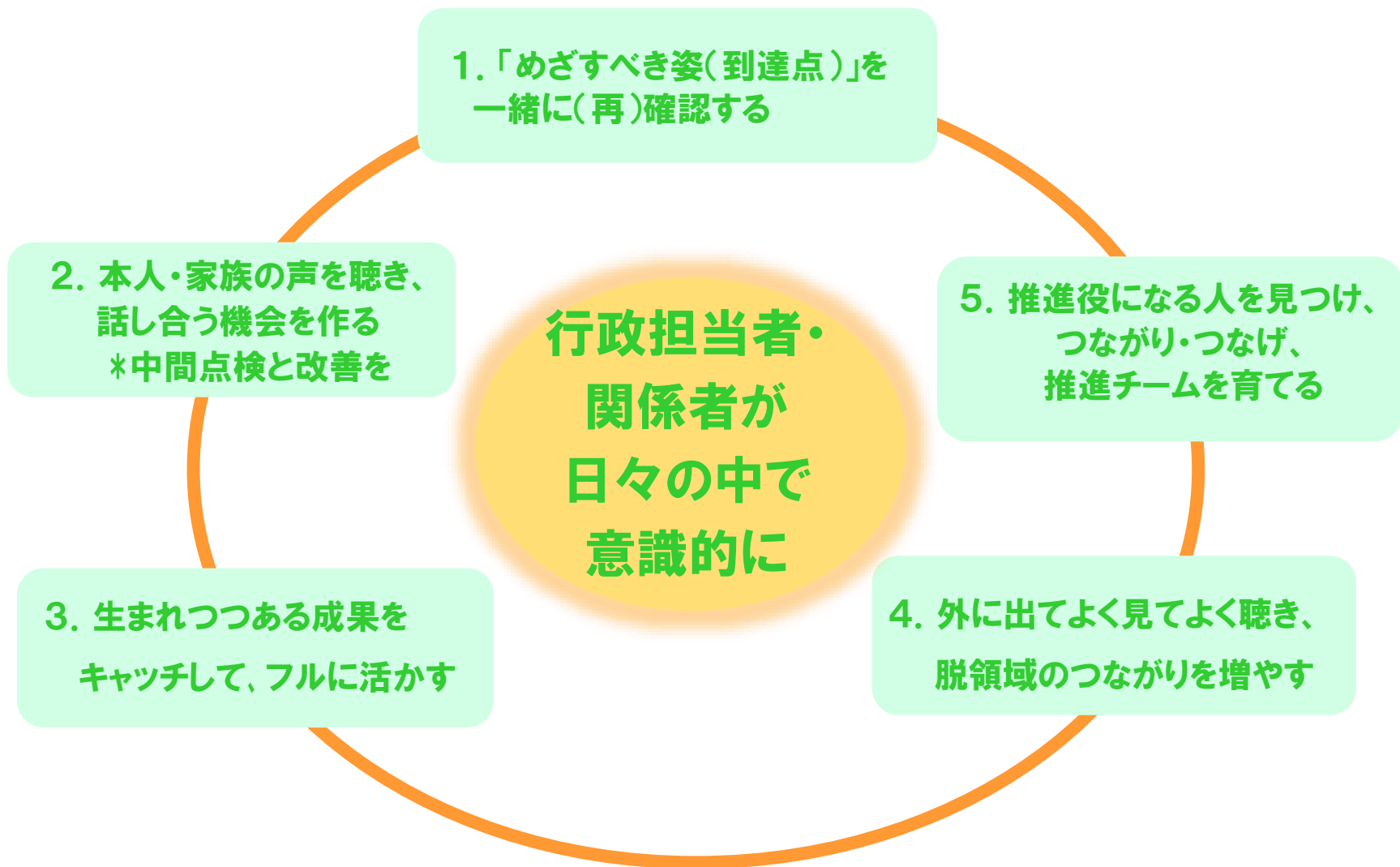
- 個人ワークで考えたことの共有
- 昨日からここまでの情報や気づきを振り返り、やるべきこと、できることのアイディアを出し合おう

* 地元で実行に移していくために、もっと知りたいことは・・・



こ れ か ら ・ ・ ・
本人(自分)が、どう暮らしていけるか

9. 今年度、そして来年度の取組みをどう展開するか



***29年度下半期をよりよいものに**
***30年度以降の基盤をつくろう**

1)個人ワーク

2日間の情報・手がかりを、整理しておこう

①今年度中に取組みたいこと/補強したいこと

②来年度、取組みたいこと
/そのために計画/予算化につなげたいこと

*ふだんやっていたこと、やろうとしていたことに、

この2日間の情報・アイデアをもとに、ひとつでもプラスをしよう

*いつものメンバーだけでなく、地域の多様な資源とともに

2) グループワーク

①今年度中に取り組みたいこと/補強したいこと

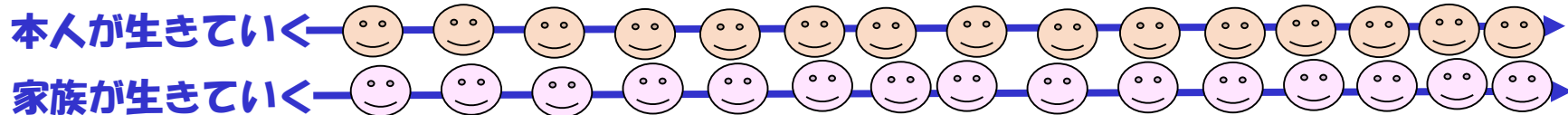
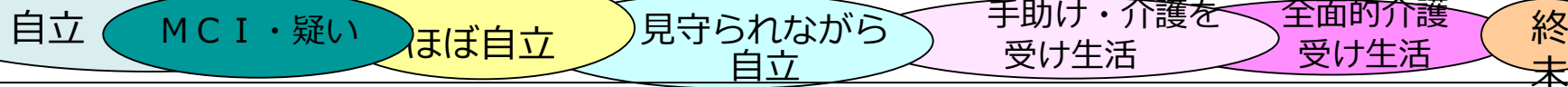
②来年度、取り組みたいこと
/そのために計画/予算化につなげたいこと

*** 互いをアイデアを活かし合いながら、具体化しよう
何を、誰と、どのように、等**

全体討議

わがまちで暮らす人の視点にたって：地域支援体制づくりを

本人が辿る経過



本人・家族の視点にたって、必要なこと、必要なあり方を（再）確認する。
地域を活かし、本人・家族が力を発揮してよりよく暮らせる支援体制を築く

◎ 地域の潜在力（人、組織、風土、文化等）

・自治体/地域がこれまで育て、蓄積してきた力・ネットワーク

*それぞれの自治体ごとに、これまでの認知症施策の歩みがある

・認知症の枠以外での地域にある多様な資源・ネットワーク・事業

☆今の時期（9月）

- ・今年度事業の展開の渦中
 - ・来年度の計画作り・予算取りの詰め
- ⇒今後の舵取りの方向性・基盤を固める時期

こなすことを焦らずに・・・

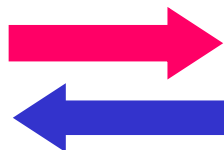
- ・方向性・方針、戦略の確認
- ・関係者との話しあい、合意形成を丁寧に

今日は、そのきっかけ。

ワークで得た情報・アイデアを
地元を持ち帰って、関係者に伝えよう。
（少人数でも）話しあう機会をつくろう。

わが町に戻って、一歩(半歩)踏み出そう。 ひたすら、つながり、つなぐ

一人ひとりの資源や
ネットワーク



地域の資源・ネットワーク

Aさんの資源

Bさんの資源

Cさんの資源

Dさんの資源

本人と家族を支える資源を見つけよう、つなげよう、創り出そう

地域にある認知症の人の支援の資源・ネットワーク

地域をつながり

地域の多様なネットワーク

(子育て・防災・自殺対策、町活性化・趣味グループ、同級生等)

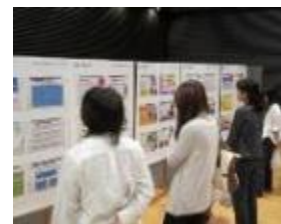
東京センターよりお知らせ：都道府県・市町村施策担当者・関係者向け

認知症地域支援体制推進全国合同セミナー

平成29年度

第3回 1月26日(金) (TKP御茶の水カンファレンスセンター)

＊申込みは、市町村⇒都道府県を通じて、東京センターへ



全国各地で取組む人たちと出会い、情報・知恵・工夫を交換しあおう！
職場内外の人に参加を進め、理解者を増やそう

2日間、お疲れさまでした！

今回のセミナーをひとつのきっかけにして
あなたの地元で、

めざしたい地域の姿にむけて

あなたが（小さな）アクションをおこしてください。
伝える、話しあう、できることから一緒に。

これからも

全国の他の地域で悩みながらも前に進んでいる
仲間とつながり続けてください。

また、お会いできるのを楽しみに！